

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心も体もたくましい蒲原の子	自分から意欲的に取り組もうとする	・自ら主体的に「ひと・もの・こと」に関わり遊ぶことができている	・子ども達が「何を面白がっているのか」「何を楽しんでいるのか」を探ることで、一緒に楽しいと感じ、遊びが広がった ・どうの様に「ひと・こと・もの」に関わらせていこうか悩み句を逃してしまふことがあり、職員同士でもっと深く話し合いをする必要がある	B	A	・S型サーブに来る子どもたちが、表情も良く活発が見られ初対面の人とも交流が出来消極的な子が少ない。子どもたちが変わってきていると感じている。 ・私たちが来園するととてもいい顔をし挨拶をしてくれる ・子どもとの安心できる関係は、学校でも大事にしている事であるが、「安心できる関係」が子どもの支えとなる	・見通しをもった保育計画を立て、教育保育を行っていく ・本年度より具体的なテーマで園内研修をおこなっていく ・来年度も子どもが安心して自己表現ができるよう、各年齢にあった関わり方、声のかけ方を大事にし教育保育を行っていく ・出来た、出来ないことでの繰り返し挑戦だけでなく、一つの遊びを面白がり様々な道具や方法、素材を試しながら挑戦する姿が見られるようにするためにはどうしたらいいのかや教材研究を、園内研修を通して職員間で学び合い保育の質を上げていく
		・様々な場面で、安心して自己発揮や自己表出ができてきている ・挨拶ができる	・安心できる関係を土台に子ども達の自己発揮を支えてきたが、自己表出が苦手な子もいる。どの様にその子達を支えたいのか対応を考えていきたい ・職員が挨拶を意識したことで、子ども達も挨拶が身についてきた	B	A		
		・興味や関心を深め、失敗しても繰り返し挑戦したり試したりしながら、生活や遊びを進めている	・保育者が安心できる存在となり子ども達の遊ぶ姿を見守ったり、一緒に楽しむことで「もう一度やってみよう」と繰り返し試したり挑戦する姿になった ・子どもの発達や遊びの見取り、願いをもって環境を整えることを、今後も常に意識しやっていくことが必要である	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・各年齢の発達や就学までに育てほしい姿を理解し、適切な援助を行っている	・期の構想や園内研修、園庭遊びの確認等で各学年の遊びや環境についてのすり合わせや、手立てについて考え合うことができた ・年齢の発達をおさえる力が職員の中で差があるので、チームとしてサポートしていく必要がある	B	A	1 (1) 縄跳び一つでも経験すべきことを抑えていることが分かった。意味のある手立てを行っていると感じた。子どもたちに考える場面を作り遊ばせていると思う。手だてはすぐできるが「観」はそうはいかない。「観」を大事にし教育保育を行っているかが大事だと思う。思いがない子どもには響かない ・職員も安心して失敗できる職場になるといい 1 (2) 小学校と違ってこども園は保護者と直接コミュニケーションが取れるのがいい所なので、大事にしてください	・子ども達の興味関心や発達、保育者の願いをおさえた保育計画が行えるよう年間、期の構想、週案、日案がつながりをもった計画を立て実践していく ・園内研修や会議の中でお互いのクラスの様子や、保育者の願いを理解し合い相談やアドバイスを行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・健康カードや保護者とのコミュニケーションの中から、一人一人の生活、健康を把握し、安心して過ごせるようにする	・保護者と連絡ノートや送迎時でコミュニケーションを通して園や家での様子を共有し、安心して過ごせる手立てを考えた ・面談での保護者との子どもの姿の共有を大事にしていった。次年度も、面談実施を年間計画をしていく	B	A	3、家庭に任せるのではなく、毎日の積み重ねを園で指導しているのと思う 6、小学校では、研修報告を短く報告する機会を作っている。(発信する機会を作っている)ポイントをおさえ報告するのでいい。園でもやってみたらどうか。 7、片付けまで遊びというが、使うのが嫌にならないような環境の工夫が必要だと思う 9、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムは形としてなくても、実践している令和8年に小学校と中学校が統合される。そこからすり合わせをして作ってほしいと思う	・保護者とのコミュニケーションから保育時間の違う子ども達一人一人が安心し、健康的に生活ができるよう環境を作っていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・子ども達の興味や関心を基に、様々な「ひと・もの・こと」に触れ、心動かし意欲的に取り組む経験が重ねられる、環境作りができています	・子どもの思いや発信を受け止めながら、子ども達と一緒に環境作りをしようと努力することができた	B	B		・研修主任を中心に、遊び環境について具体的な話し合いを行う ・今年度、池を作ったり、赤土山の土を増量したり園庭改造を行ってきた。来年度も、子ども達が自ら関わりたくなるような園庭づくりを行っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・様々な状況を想定し訓練を行うことで、全職員が非常時の対応ができています	・訓練の回数を重ねるごとに、危機管理意識が高まり安全に避難ができるようになってきていると感じる ・口頭伝達の際、的確に状況を伝えられるように訓練する必要がある ・様々な想定や時間で訓練を行い、自分がどう動き子どもの安全を守りながら避難をすることができる常態で考え最善な方法を見つけていく必要がある	B	B		・予告なしの訓練の回数を増やし、その時の職員数、状況に応じて子どもの安全を確保しながら避難ができる力を身につけるようにしていく ・今年度は、口頭伝達に課題が残ったため次年度は、状況を的確に伝えるためのポイントを職員間で確認し訓練していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・身の回りの事が身につくよう、年齢の発達に合った指導が行われている	・子ども一人一人に丁寧に寄りながら、年齢の身の辺り自立が身につくよう指導することができた。今後も個の発達を確認しながら、指導していきたい	B	A		・年齢に合った生活習慣が身につくよう、発達をおさえるために参考文献を読んだり、指導の方法を他の職員に相談するなどしながら引き続き丁寧に行っていく ・経験年数が多い職員は経験年数が短い職員の良き相談相手となり指導の仕方のポイントや、年齢ごとの身につけるべき習慣についてなどアドバイスをを行い、こども園を通して身につけるべき習慣を一貫性のある関わりで身につけていけるようにしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・一人一人の発達に合った支援計画を作成し、適切なかかわりができている	・一人で作成するのではなく関わる職員だけでなく、外部講師にもアドバイスをもらいながらサポートプランを作成できた。しかし、作成したサポートプランを職員に伝え、支援方法を共有する体制が弱かった	B	B		・支援児担当者会議を行い、完成したサポートプランは職員間で共有し子ども理解や関わり方を共有していく ・気になる子への関わり方についてケース会議を定期的に行い、参加できなかった職員には分掌担当が伝えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・自分の分掌、役割に責任を持ち、組織として協力し合いながらすすめ、同僚として助け合える関係になっている	・分掌リーダーが中心になって進め、協力し合って準備ができた ・分掌で活動量の差があるが、リーダー中心に職員を巻き込みながら行える体制の確立をしていきたい。また、どの職員でも機能する分掌になるよう内容ややるべきことを明確にしていきたい	B	B		・各分掌が責任をもって進め、リーダーを中心に話し合いを行い計画を立て意見を吸い上げながら協力しながら進める ・重点目標を意識した年間計画を立て実施していく
6 研 修	(1)研修体制の充実	・園内外の研修に、多くの職員が参加できる体制が整い学び合っている	・今年は、多くの職員が園外の研修に参加することができた。研究保育(園内研修)も年間計画通り実施できている	B	A		・今年度同様多くの職員が園外の研修に参加できるように調整を行う ・園内研修の多くの職員が参加できるよう、内容や時間を工夫し実施していく
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	・季節や子どもの興味関心や行事につながる絵本環境が整えられている ・子ども達が自ら関わりたくなる環境が整えられている	・季節や子どもの興味関心や行事につながる絵本環境を整えることができた ・子ども達が自ら関わりたくなる環境を意識しながら整えた。また、子ども達が使ったものをどこに戻したらいいのかわかり易い環境の工夫を心掛けたが、繰り返し始末の仕方を知らせる必要がある	B	A		・多くの絵本に子ども達が出会えるよう、クラス内の絵本の環境を整える。また、子ども達が大事に扱うように指導し、定期的に絵本の修繕も行っていく ・子ども達が道具や素材が扱いやすく始末しやすい環境を整えていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・写真や動画等視覚を活用しながら、保護者に教育保育が伝わるように工夫し発信している	・ドキュメンテーションやクラスだよりをどの様に作ったら伝わるのか工夫しながら作ることができた	A	A		・ドキュメンテーションや毎日の保育の様子を掲示だけでなくきっかけにして保護者と子どもの育ちを共有していく ・参加会や面談を計画的に行い保護者に教育保育を伝え、子どもの育ちを共有していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・近隣園の公開保育に参加し、自園の教育保育に活かしている ・小学校とアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムでの接続を図る	・他園の公開保育に参加し環境の工夫や、園内研修のやり方を知る機会となった。学びを活かそうとした ・年長と小学校との交流を計画的に行い、少しずつ就学への期待が高まっている ・小学校と子どもについて語る会が開催され、学校探検や教頭先生との交流で年長児がつながるなど、一歩前進した接続となっているが、架け橋プログラムまでのつながりとなっていない為、来年度は形作りを小学校と相談して行いたい	B	A		・小学校と子ども達だけでなく、職員同士の交流することで園の学びが学校でどのようにつながっているのかを理解する ・令和8年の小中一貫校に向けて、できることから始め蒲原地区の幼小の接続の土台をしっかりと築いていく ・来年度も、他園の公開保育に参加することで自分や自園の保育に活かしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・地域の方々の力を借り、子ども達が心動かし直接体験が出来ている	・コロナが5類となり、今年度は地域に出掛け地域の方々との交流が増え、今までできなかった体験が出来ている ・次年度は、今年度以上に地域の方々との交流を深めていきたい	A	A		・今年度以上に積極的に園外に出掛け地域の方々や環境に触れ、今年度つながった地域の方との関係をより深めていく。蒲原東部こども園独自の地域交流を確立していく